

## デクスメトミジン静注液 200 $\mu$ g「ニプロ」および デクスメトミジン静注液 200 $\mu$ g/50mL シリンジ「ニプロ」 「用法・用量」一部変更承認取得のお知らせ

ニプロ株式会社(本社:大阪府摂津市、代表取締役社長:佐野 嘉彦)は、デクスメトミジン静注液 200  $\mu$ g「ニプロ」およびデクスメトミジン静注液 200  $\mu$ g/50mL シリンジ「ニプロ」につきまして、2025 年 1 月 22 日付で、以下のとおり、用法・用量の一部変更承認を取得しましたことを、お知らせいたします。

〔承認内容〕 ※下線部分が追加されました。

効能・効果	<p>○集中治療における人工呼吸中及び離脱後の鎮静</p> <p>○局所麻酔下における非挿管での手術及び処置時の鎮静</p>
用法・用量	<p>〈集中治療における人工呼吸中及び離脱後の鎮静〉 通常、成人には、デクスメトミジンを 6 <math>\mu</math>g/kg/時の投与速度で 10 分間静脈内へ持続注入し(初期負荷投与)、続いて患者の状態に合わせて、至適鎮静レベルが得られる様、維持量として 0.2~0.7 <math>\mu</math>g/kg/時の範囲で持続注入する(維持投与)。また、維持投与から開始することもできる。 <u>通常、6 歳以上の小児には、デクスメトミジンを 0.2 <math>\mu</math>g/kg/時の投与速度で静脈内へ持続注入し、患者の状態に合わせて、至適鎮静レベルが得られる様、0.2~1.0 <math>\mu</math>g/kg/時の範囲で持続注入する。</u> 通常、修正在胎(在胎週数+出生後週数)45 週以上 6 歳未満の小児には、デクスメトミジンを 0.2 <math>\mu</math>g/kg/時の投与速度で静脈内へ持続注入し、患者の状態に合わせて、至適鎮静レベルが得られる様、0.2~1.4 <math>\mu</math>g/kg/時の範囲で持続注入する。 なお、患者の状態に合わせて、投与速度を適宜減速すること。</p> <p>〈局所麻酔下における非挿管での手術及び処置時の鎮静〉 通常、成人には、デクスメトミジンを 6 <math>\mu</math>g/kg/時の投与速度で 10 分間静脈内へ持続注入し(初期負荷投与)、続いて患者の状態に合わせて、至適鎮静レベルが得られる様、維持量として 0.2~0.7 <math>\mu</math>g/kg/時の範囲で持続注入する(維持投与)。なお、患者の状態に合わせて、投与速度を適宜減速すること。</p>

ニプログループは今後とも、患者さんの QOL(Quality of life)向上はもちろんのこと、より安全で、社会のニーズに応えられる製品の開発、提供に努めてまいります。

### お問い合わせ先

リリースの内容に関するご照会 : 広報担当

TEL 06-6310-6910

医薬品に関するご照会 : 製品戦略部

TEL 06-6310-6958

※受付時間 9 時~17 時 45 分(土・日・祝日・当社休業日を除く)

このニュースリリースは、報道関係者や株主・投資家等の皆さまを含む多くのステークホルダーに対し、当社の企業活動に関する情報やその取組み概要について、公平かつ適切なタイミングで提供することを目的としています。

文中に含まれる当社取扱製品やサービスに関する情報は顧客誘引や医学的アドバイスを意図するものではありません。